

のうせい 佐用

農業委員会だより

第 45 号

平成 29 年 8 月 5 日発行

佐用町農業委員会

TEL.82-0667 (農林振興課)

FAX.82-0017

ちくさ刊



一般社団法人全国農業会議所・全国農業新聞が主催する第 23 回「農業委員会だより全国コンクール」において、都道府県代表 39 作品の中から平成 28 年中に発行した本誌が“全国農業新聞特別賞”を受賞し、4 月に行われた全国情報会議において表彰されました。今回は現場取材に根差した紙面づくりが評価され、今後も親しみやすく、読みやすい記事づくりを行っていきます。

主な記事から

- ☆ 宝蔵寺地区にインタビュー . . . 2~3
- ☆ 農業委員会からのお知らせ . . . 4
- ☆ 編集後記 . . . 4



毎年、1つ1つ心を込めて案山子を作成しています



インタビューの様子。
ひまわり栽培の大変さを語ってくれました



ひまわりが咲く宝蔵寺地区。多くのかかしが迎えてくれます

ひまわり栽培の歴史

ひまわりの栽培は、減反政策の転作物のひとつとして始まりました。見ごろが終わって種が自然と落ちるくらいに乾いたら刈り取り、JAが乾燥を行います。その後、南光ひまわり館の搾油機で油を搾ります。農薬を使用せずに栽培し、薬品を使わずに搾油しているので、体にやさしい油ができます。この油から、ドレッシングなどのさまざまな商品が作られています。

ひまわりを町の観光資源として活用し始めたのが平成2年。当時の旧南光町で開催された初回のひまわり祭りから多くの人が訪れ、今では期間累計15万人とも言われる人たちが、ひまわりを見ようと佐用にやってくるようになりました。

今後のひまわり栽培

宝蔵寺地区では、現在約4畝で

◎生産者にインタビュー

宝蔵寺地区のひまわり栽培

今月号は、『宝蔵寺地区』でのひまわりの取り組みを紹介します。

ひまわりが咲く7月。姫新線のポスターに登場する場所として知られ、撮り鉄（鉄道撮影マニア）だけでなくたくさんカメラマンでにぎわうのが、ここ宝蔵寺地区です。訪問した6月初旬には、40センチほどに成長したひまわりが、中耕を終えたばかりの畑に元気よく広がっていました。

ひまわり畑の広がる農道で、宝蔵寺自治会長の木南嗣男さんと、農会長の安東繁樹さんの2人にお話を伺いました。

花の命は短く、真夏に太陽に向かって咲き、力強いひまわりの花が実際に楽しめる期間はせいぜい1週間、長くても10日程度です。天候にも左右され、長雨で畑に水が溜まってしまつと枯れてしまうこともあります。「幸い今年は入梅したと言うのに好天が続き、いい花が咲いてくれるはず」と2人はひまわりの成長ぶりを見て、笑顔で話します。

新たな取り組みを

そんな中、ひまわり畑では、花が咲くころになると、遅くまで作業する人の姿があります。と言っても、それは人間ではなく、作業服を着たり、草刈り機を担いだりしているかかしです。

2年前からかかしを制作しているのは、集落に住む木南弥生さん、木南まゆみさん、木南ますみさんの3人。古着を集め、新聞紙や水道管の保護材などを加工して、老若男女のかかしを作っています。費用はすべて自前。通学姿の子供たちや、釣り人、カメラマン、農作業をしている人など、風景に合ったかかしを考えて作っています。取材のときには浴衣姿のかかしを制作中でした。

集落では、ひまわりと並んで稲作アートも育っています。そばでは表情豊かなかかしたちが遊ぶ宝蔵寺地区は、おもてなしの心であふれていました。

農業委員会からの お知らせ

☎TEL 82-0667
infomation

農地・パトロールを 実施します

農業委員会では適正な農地行政の推進、行動する農業委員会づくりなどを目的として農地パトロールを実施しています。今年も8月をパトロール月間として、町内全域を対象に行います。

パトロールでは農地法許可・届出事案の履行状況の確認と、遊休農地・荒廃農地の発生防止や解消に向けた調査を行います。

農地法の許可・届出事案

過去1年間に許可・届出のあった事案について、適切な管理と事業計画に沿った転用事業が行われているかを確認します。事情により着手が遅れていた、計画の変更が生じている場合には手続きが必要となります。

遊休・荒廃農地

遊休農地は害獣の住処となり、不法投棄をされたりするなど近隣の農地や民家に悪影響を与える恐れがあります。パトロールで確認した遊休農地に対しては、所有者に意向を確認し、解消に向けた方法を検討していきます。

集落内や近隣の農地でお困りのことや気になることがありましたら、事前に農業委員又は事務局までご連絡をお願いします。

☎ 佐用町農業委員会

☎ 82・0667



全国農業新聞を 購読しませんか

全国農業新聞は、農業者の公的機関である農業委員会組織が発行する週刊の農業専門誌です。1週間のニュースに解説を交え、より深くわかりやすい紙面となっています。また、経営、技術、流通などの農業に関する情報、農業者年金相談コーナーや地域の身近な情報など、家族全員が楽しんで読める新聞です。この機会に購読してみませんか。

●発行日

月4回金曜日発行

●購読料

月700円(税込)

購読をお考えの方は、農業委員または農業委員会事務局までお知らせください。



編集後記

前回、若い農業者を取材して、私が若い頃聞いていた岡村孝子さんの「夢をあきらめないで」の詞が思い浮かびました。夢に向かって進む彼氏を遠くで見守っている恋人の歌ですが、農業に夢を抱いている彼らにもこのような出会いがあるのでしょうか。

農業者の高齢化が進み、耕作放棄地が目につくなかで、若手農業者の話を聞くと、草木が芽生える季節を向かえたように清々しい思いがします。

このたび、広報『ちくさ川』が全国農業委員会だよりコンクールで全国農業新聞特別賞を受賞しました。これを糧に、今後さらに親しみやすい紙面づくりを心がけます。

編集委員 高見重嘉

編集委員会

委員長	小原孝文
副委員長	腰前正好
委員	福田範康
委員	高見重嘉
委員	保田重實
委員	秋田洋三
委員	森林茂

農地に関する許可申請の締め切りは、毎月末です。

9月委員会分	8月31日(木)
10月委員会分	9月29日(金)
11月委員会分	10月31日(火)

◆農業委員会総会は
原則として、毎月20日です